

事業名：学力向上拠点形成事業
 学校名：東広島市立木谷小学校
 所在地：東広島市安芸津町木谷4122番地
 H P : http://www.city.higashihiroshima.hiroshima.jp/kidani-sho
 年級：7学級 98名

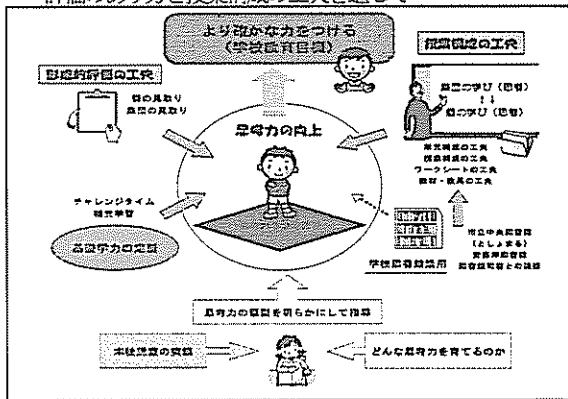
1 研究の概要

(1) 研究テーマ及び研究のねらい

① 研究テーマ

思考力を高める授業の創造

～評価のあり方と授業構成の工夫を通して～



② 研究のねらい

昨年度主体的に学びかかわり合って高まる子どもの育成をテーマに実践をしてきたが、今年度は、昨年度の研究成果と課題をふまえ、思考力向上により重点化・焦点化を図り実践を積み上げていきたいと考えた。学習における思考力を五つの類型でとらえ、教材開発を進めるとともに、「形成的評価の工夫」と「授業構成の工夫」という観点から、授業改善を図り、思考力を高めたいと考え、本研究主題を設定した。

(2) 研究組織・体制 (省略)

(3) 研究内容

① 教科・・・国語科・算数科

② 形成的評価の工夫

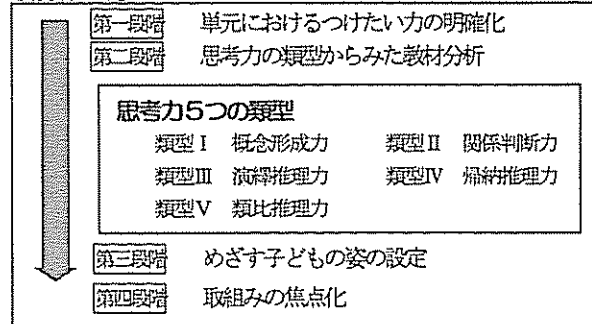
・評価シート・ふり返り・単元末テストなどから個や集団の思考力の高まりを見取る。

③ 授業構成の工夫

・発言内容・ワークシート・授業記録などから、授業構成が思考力の高まりに結びついたかを検証する。

2 授業改善の視点

○授業づくり



○形成的評価の工夫による授業改善

診断的評価 …個の思考力のとらえ ↓
 授業 …個の思考力の見取り (評価シート) ↓
 指導の修正 ↓
 思考力の高まり
 総合的評価 …個の思考力の評価

○個に応じた授業構成

- ・単元構成の工夫
- ・「個の学び」「集団の学び」による授業展開の工夫
- ・習熟度別・コース別学習
(個の能力や関心に応じた学習)
- ・教材・教具の工夫
(個の思考を助ける教材・教具)
ワークシート・ヒントカード

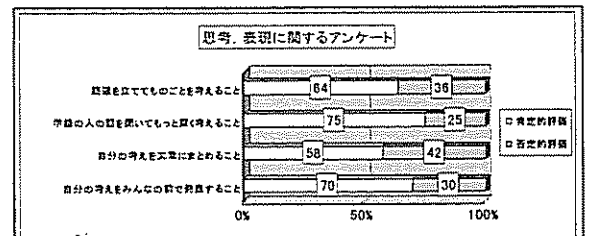
3 研究の成果と課題等

(1) 成果

- ① 思考力を5つの類型にまとめ、単元の内容に照らし合わせながら思考力を焦点化することによって、教材解釈が深まり、思考力の高まりを見取ることができるようになった。
- ② ワークシートの作り方を個の思考力を見る観点に沿ったものに変えていったことで、授業中の個の活動の中で、思考力を見取ることが可能になった。(形成的評価の工夫)
- ③ 「個の学び」と「集団の学び」を組み合わせた授業を構成することによって、個の確かな考えをもち、それを集団の中で練り合うことによって個の考えの変容をみるという授業パターンができてきた。(授業構成の工夫)
- ④ 個の思考を助ける教材教具も授業構成の要素と考え、ワークシート、ヒントカード、発表ボード、具体物などの効果的な使い方を考えるようになった。(授業構成の工夫)

(2) 課題

ふだんの学習の様子から、表現力についての課題も依然として大きいことから、その実態を見るために、今年度前期末に表現力の高まりをみるアンケートを実施した。(グラフ) その結果、「自分の考えをみんなの前で発表すること」については、7割の児童から肯定的な回答を得たものの、「自分の考えを文章にまとめること」について肯定的な回答をした児童は6割に満たないことが分かった。思考力の高まりと同時に、表現していく力の必要性を感じている。



(3) 今後の改善方策

思考力を高める授業についての研究を進めていくとともに、本校の特色である「学校まるごとライブラリー」を生かして様々な文章や資料を読む機会を充実させ、「読む力」をつける。また、授業構成を工夫し、テキストに基づ

いて自分の考えを書く取組みを充実させ、「書く力」を高めるとともに表現力を育成していく。

4 実践事例(1)

(1) 第3学年 国語科

(2) 単元の紹介

①単元名『自然のかくし絵』

②単元の目標

一つ一つの言葉の意味を考えながら、まとまりごとに内容を正しくとらえるという基本的な読解の技能を習得する。

③単元の展開(全10時間)

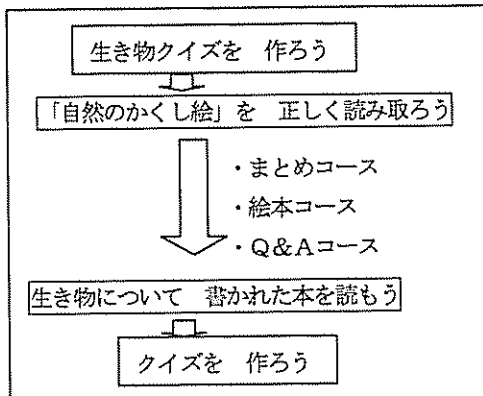
(3) 授業改善のポイント

①指導方法の工夫

「保護色が自然のかくし絵である」という共通性を、具体例にあてはめて、保護色の働きや様子を正しく読み取るにより演繹推理力を育てていく。

②授業構成の工夫

・単元構成の工夫



・ワークシートの工夫

③形成的評価の工夫

・レディネステストを生かす

・ワークシートの工夫

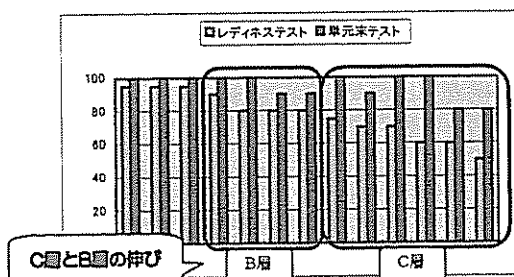
・単元の評価シートの活用

(4) 検証

☆話述から見る思考力5つの類型(児童のふり回りカードより)

- ・「自然のかくし絵」といえるのかを一番考えた。
- ・虫たちがどうやって身を守っているのかを考えた。
- ・「このように」の「この」のところを探して考えた。
- ・Oさんが写真をさしながら話したので、分からなかったことが分かった。
- ・保護色が役に立たないことについての友だちの発表を聞いて、役に立たないときのこと分かってきた。

☆思考力に関する個の変容



実践事例(2)

(1) 第2学年 算教科

(2) 単元の紹介

①単元名『たし算』

②単元の目標

十進法のしくみをもとにして、加法の計算の仕方を考え、筆算の仕方に結び付ける。

③単元の展開(全13時間)

(3) 授業改善のポイント

①指導方法の工夫

1年生の『たし算』で学習した「一の位のたし算で10ができて十の位に繰り上がる」という既習事項から、演繹的思考を働かせて、本時の学習内容を考えさせていく。

②教材の工夫

・「個の学び」の場での具体的操作活動

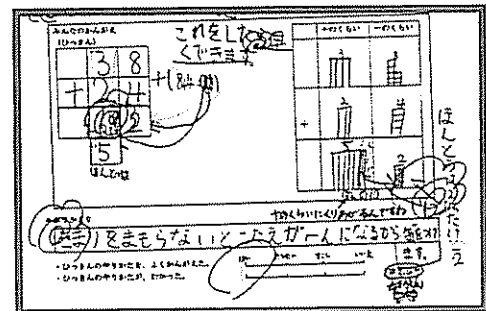
・ワークシートの工夫

・板書の工夫

③形成的評価の工夫 *国語科と同様

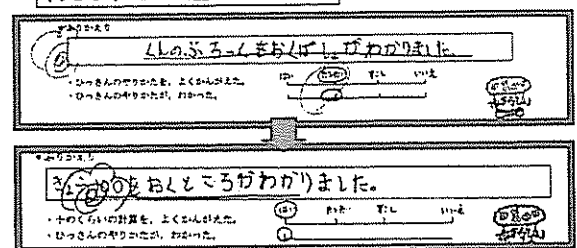
(4) 授業の様子(児童生徒の変容)

<児童のワークシート>



<児童のふり回り>

単元の中でのC層の児童の変容



(5) 国語科と算教科における成果と課題

- ・「個の学び」の場で、習熟に応じたワークシートを用意し、児童が自分で選んで取り組むことで、個の思考を深めることができた。これからも、個に応じたワークシート・ヒントカードを工夫していく。
- ・「個の学び」の場で、本時の評価シートによって評価的的確にし、児童に返していくことによって、児童の学習意欲を高めることができた。
- ・「集団の学び」の場で、練り上げがより深いものになるよう、教材研究・児童への指導を積み上げていく。
- ・授業のふり回りを大切にし、単元の評価シートにより、児童の1時間ごとの様子を的確につかんで次の授業へ生かすことで、より確かな学習内容の理解・思考力の高まりをみることができた。